

濟州の旅—自由と平和はタダではない—

毎年のように韓国を訪問しているが、3月に久しぶりに濟州に行った。前は2000年だったからとても新鮮な旅となった。これまでの旅では雲に隠れてあまり見た記憶のない漢拏（ハルラ）山が今回はずっと見えていたのがうれしかったし町は小ぎれいになり、バス便も整備され移動は楽になった。

今回濟州旅行を思い立ったのは、主には4・3事件（*）の事跡と日本軍の軍事基地跡を見るためだった。前回は行ったときはまだ4・3事件の復権がやっと緒に就いたばかりで事件をしのぶものも全くなかった。その後4・3平和公園、紀念館が整備されたことを聞きぜひ行きたいと思った。濟州市郊外を漢拏山麓に向けバスは走り遠くに濟州市外を見下ろす広大な土地に平和公園はあった。公園には慰靈塔、各村の犠牲者の刻銘碑、そして展示室（紀念館）などが点在し、毎年4月3日ここでは国を挙げての追悼式典が開かれる。バス車内の案内でもその予告が何回も流されていた。解放後、濟州の民衆の自治組織が次第に米軍政と対立するようになった経過、それは米国が決して解放軍ではなく占領軍であり民衆支配のために日帝植民地時代の親日派（官僚、軍人）と脱北者たちを登用したことに起因する。そして47年3・1節集会での6名射殺から48年4・3蜂起に至る経過が述べられ、武装蜂起が不可避であったことがわかる。

島内各地に虐殺現場があるが、そのうち一日に400人以上の村民が殺された北海岸の北村（プクチョン）を訪れた。現場跡には小さな紀念館が建てられている。虐殺の村にあるので平和公園の紀念館以上に臨場感がある。



(北村慰靈碑)

この村で討伐隊2名がパルチザンに殺されたことをきっかけに村民1000名ほどが小

学校校庭に集められ、村は焼かれたうえ周辺の何か所かで虐殺が行われたという。青い海を背景に立つ慰霊碑を見ているとなぜこんな美しい景色の中で大量の人が殺されなければならなかったのかと痛切に思う。

展示の中で事件の数年後に遺族たちが犠牲者のために涙を流したというだけで検挙されたことがあった。非業の死を遂げた家族を悼むことさえ許されなかったこのような状況が半世紀も続いたとはなんと残酷なことだろう。ここには小説で4・3事件を1978年に初めて取り上げて検挙された玄基栄の作品「順伊おばさん」中の文章を刻んだ石碑群もあった。

さて、第2次世界大戦末期の1945年6月沖縄が本土防衛・国体護持の時間稼ぎとして玉砕、県民に多大な犠牲を強いる戦いとなった。実は濟州島も同じ役割をさせられることになっていて、秋ごろを想定して島民を動員した全島要塞化が進められていた。結局8月に日本が敗戦となったため玉砕は免れたが、3年後の4・3事件の悲劇を誰が予想しただろう。島西南部の丘に地下要塞基地が残っており、そこに平和博物館がある。今は1か所だけが開放され、入ってみるとつるはしの跡も生々しいトンネルとなっている。博物館では日本軍の残留品や当時の濟州の軍事状況が展示され、ここが島全体の司令部であったことがわかる。映像では濟州の戦争の歴史と平和の道を訴える韓日の若者たちの姿が映され希望を感じた。敷地内には「世界平和の島」宣言の碑があり、盧武鉉の言葉が添えられている。「平和の島」濟州の多難な歴史を見ると、博物館の壁に掲げられた「自由と平和はタダではない」という言葉の重みをひしひしと感じる。

平和博物館から南方、大静邑の海岸近くに日本軍の滑走路跡とその周辺に格納庫群が広がっている。



(格納庫の一つ)

この滑走路は日中戦争時南京爆撃の出撃地となったという。この日は海に近いからか猛烈な冷たい風が吹きまくり、じっと立ってられないほどでゆっくり見られなかったのは残念だったが、そのかわり「三多(風、石、女)の島」済州の風を経験させてもらった。すぐ近くには4・3事件の虐殺地があり歴史の複層性も感じさせるところでもある。

国立済州博物館では耽羅(タムナ)国として高麗時代まで独立国であった済州の歴史を学ぶ。独立国として朝鮮本土、日本、中国、琉球などと交流を持っていたのだろう。これは19世紀の琉球処分まで薩摩の支配を受けながらも独立を保ち続け、国際交流も盛んだった沖縄の歴史を思い起こさせる。済州も沖縄も併合後本土から差別されてきたことも共通する。それが済州の4・3事件の虐殺につながり、本土のために沖縄が犠牲とされたこともこうした差別に基づくものであることは間違いないだろう。

旅行中、韓国の報道を見ると4・3事件の犠牲者への補償法案が国会で審議され、4・3事件鎮圧に送り込まれる軍人が反乱を起こした麗水・順天事件の再審も決まったという。こうして親日派の断罪とともに民衆抑圧の歴史の清算も進められている。また李明博、朴槿恵時代の不正の追及も続けられている。前政権、前々政権の不正問題については政治報復的な要素もあるかも知れないが、安倍政権下でなされた森友、加計事件、文書改ざん、統計不正そして沖縄県民の意思を無視した辺野古埋め立て等々数えきれないほどの不正を追及しきれない日本の状況を見るとうらやましい限りである。考えてみれば日本では明治以降の侵略の歴史が全く清算されていないが、一体いつになれば150年間の過去清算ができるのだろうか。済州の美しい自然と美味しい料理を満喫しながらもどこかもどかしい思いもする旅だった。

(*) 4・3事件

1948年4月3日南朝鮮労働党(南労党)を中心に「南北分断を固定する南の単独選挙反対」を掲げ武装蜂起した。またそれは米軍政と李承晩勢力がすすめた過酷な弾圧に対する反撃でもあった。これに対し米軍政と李承晩勢力は済州全体を「レッドアイランド」と呼んで島民全体を共産主義者とみなし、本土からの動員で残酷な掃討作戦が展開され朝鮮戦争を挟む数年間に3万人近くの人が殺された。

(土代 武)